



共通テスト速報！難化した教科もあったが、5教科平均点は文系理系ともアップ！

大学入学共通テスト（以下共通テスト）が終わりました。昨年度史上最低の平均点だった数学ⅠAⅡBの平均点が回復したので、5教科の平均点はアップしましたが、昨年度より、英語リーディング・国語・世界史・倫理・政経・生物など多くの教科が難化しました。やはり共通テストの特色である複数の文章やたくさんの資料を読みこなしたり、情報処理する能力が必要になるという傾向はますます強まっています。

難化した教科はどのような特徴があったのか？

- 英語リーディング：様々な場面や状況がテーマとされた長文が出題
 - 国語：複数の文章を比較して関連付ける思考力を問う問題
 - 世界史・倫理・政経：正確な知識をもとに多数の資料を読解し、考察し判断する力を問う問題
 - 生物：様々な切り口の実験考察問題が多く、高い思考力が必要な問題
- 難化した教科は、共通テストの特徴である複数の文章やたくさんの資料が出題されることで、「思考力」や「判断力」を問う形式になっています。その結果問題文の分量が増加しているので、時間内に効率よく解いていくことが必要になります。実際に74期大学生チューターに今年の共通テストを解いてもらい、皆さんにアドバイスをしてもらいました。

【数学ⅠA・ⅡB】

74期大学生チューターのH. H君（東京都立大学）

「どの大問でも必要な発想・知識は高校3年間で修得しています。問題文の誘導に乗れるかどうかで難易度が大きく変わるので、文中の必要なワードを見逃さないことです。問題文は読ませる部分が多く、不要な情報がまぎれています。そのため、速く正確に読む技術を身につけたいところですが、青チャートなどでは中々見かけない問題形式なので、模試や過去問を1周で満足せずに使い倒してください。とはいえ、ある程度の計算スピードと最低限の暗記は必要なので、インプットとアウトプットを交互に行いながら、実力を伸ばしましょう。」

【英語リーディング】

74期大学生チューターのK. Mさん（早稲田大学）

「分量が多いので、精読と言うより速読力が必要です。問題文を先に読んでから、文章を読むと問題に必要な部分以外は力を入れずに軽く読むことができます（ただし読み飛ばしはダメです）。時間配分を考えたり、解く大問の順番を変えることも効果的です。共通テストリーディングの対策方法は、とにかく英文の量をこなすことです。毎日コツコツ読んで、速読力や語彙力をつけましょう。重要そうな部分をそうでない部分で、読む速度を変えることができるとラクに読めるようになります。」

【国語】

74期大学生チューターのE. Sさん（東京学芸大学）・M・Tさん（学習院大学）



「古文は大体が単語帳を見て覚えていれば、解けるので落とさないようにしましょう。古文単語には複数の意味を持つものもあるので、その場合はすぐ決めないで、ある程度しばらく文章を読んでから解答するといいです。文法（助動詞・敬語）は、文法書をしっかりと学習しましょう。」

「漢文はとにかく漢文必携を読みましょう。漢文は主語・動詞・目的語・補語を正確に理解すると読みやすくなります。人物は□で囲んだり、自分流のルールで漢字の羅列（られっ）を単語に分けることが大切です。」

「古文が理解できていれば、漢文も時制など理解できます。漢文の代表的な文法を覚えておけば、答えられる設問があります。」

「古文・漢文では問いの選択肢を見ることは効果的（現代文はやらないでください）です。大まかな内容と登場人物を確認できるため、読みやすくなります」

「評論の解き方ですが、文章を読む前に問いを確認します。ここで選択肢まで見ると、ほとんどが間違いですし、変な固定概念にとられるので、見ないでください。次に問題文を読んで、何について聞かれているのかを把握しましょう。解答するときは、文章を細かく区切って見るとよいです。ここで注意するのは、どれだけ内容が合っても一部が違っていたら×なので要注意です。迷ったら△にして他の選択肢と比べましょう。」

「小説のポイントは個人的な感情を持ち込まないことです。自分だったらこう考える（思う）だろうな、こう思っているだろうと問題を解くのは危険です。本文をしっかりと読み、答える際には根拠が必要なので意識しましょう。」

【日本史B・世界史B】

73期大学生チューターのK. H君（慶應義塾大学）

「共通テスト日本史・世界史は、難化したと言われますが、私大に比べれば簡単な方です。ただ情報処理能力を求められるので、多い問題文、図、地図、資料（史料）からポイントを見つけて問題を処理することが大事です。日本史や世界史は単なる暗記ではなく、理解して覚えるのが正解です。やみくもに出来事を覚えるのではなく、流れに注目すること、もちろん覚えるためにインプットはするが、アウトプットも大事！単語は1問1答でアウトプットし、色々な問題を解いてみるとよいです。政治の話に文化史の時期をきちんとリンクさせることが大事です！『古い順に並び替えよ』のような時代順を尋ねる問題が苦手な人がいますが、それは出来事を年号で覚えているか、出来事の因果関係を知らないからです。日本史や世界史は重要な年号は覚えた方がいいですが、大学入試では年号を問うところ（例えば上智）は少ないので大まかで大丈夫です。まずは選択肢を見て、次に資料（史料）を見て正誤を決めましょう。さらに資料（史料）問題では知識も関わるから持っている知識をフル活用するとよいです。」

私立大と共通テストの関係

私大は3教科勝負なので、「3教科をとにかく極めろ」と言われますが、有名私大を志望する場合は3教科の高得点が要求されます。私大も共通テスト利用はどんどん拡大しているので、共通テストも重要です。私大志望の場合は、私大の個別試験対策に加えて、しっかりと共通テストの傾向に沿った実力を身につけ問題演習を行うと相乗効果で実力伸びます。

これから何をすればいいの？

共通テストで必要とされる知識はあくまでも高校教科書の範囲内です。まずは12年で習った基礎事項の徹底と確認を行うべきです。その時には、かつてのセンター試験の過去問も活用できます。しかし、過去問演習で終わってははいけません。必ず、模試や共通テスト

対策の実戦型問題集で新作問題にチャレンジしてください。本番では、見たことのない新作問題にうまく対応できるかがポイントになります。そのためには模試や予想問題などの新作問題の演習が必要なのです。これを忘れずに対策をしっかりすれば、共通テストでの高得点確保は可能です。日々の努力を続けられることを期待しています。

大学入学共通テストは、5教科－8科目、5教科－7科目がおすすめ

●5－8＝ 英語・国語・数学2科目・基礎理科2科目・地歴or 公民から2科目(文系)※

●5－7＝ 英語・国語・数学2科目・理科2科目・地歴or 公民から1科目(理系)※

多くの国立大学では5－8科目、または5－7科目の大学入学共通テストが必要となります。それに対して私立大学では科目数が少なく、3科目が中心です。そこで苦手な科目があると、私立大学を受験しようとする受験生が出てきます。しかし、受験の科目数が少ないから勉強する科目も少なくてよいという考え方には注意が必要です。なぜならば、一般的に科目を減らすと

①難易度は増す

②3教科型で失敗すると取り返しがつかない ことになり

ます。12年の皆さん。苦手科目があるからと安易に受験科目を減らす前に、行きたい大学どこかを第一に目標を設定しましょう。その大学が私大なら科目を極める勉強が必要ですし、国公立大ならあきらめずに総合力をアップしましょう。

※77期生からは情報1も受験科目に入ります。



これから共通テストを受験する皆さんへのアドバイス

『2023年度大学入学共通テスト【本試験】速報』進研模試編集部より

【国語】

●生徒の学習過程を想定した設問や、複数テキストを比較・まとめながら応用的思考力を問う設問が出願されます。本文の構成や展開を正確にとらえ、論旨(ろんし)や内容を正確に読み取る力に加えて、複数の文章や資料の共通点や違う点をとらえたり、抽象化してまとめる力が求められます。文章の表面だけの読解だけでなく、底にあるテーマや書かれた背景にまで着目して、深く考える力を身につけましょう。

●漢字や語句の意味に関する設問、重要語や古典文法に関する設問など、基礎的な知識を問う設問は引き続き出題されますが、毎日の学習を通して、ひとつひとつの知識をマスターしながら、その知識を丸暗記するだけでなく、実際に使用する場面に応用して考えることを心がけましょう。

【数学I A】

●日常の出来事の問題や対話形式の問題は、問題文が長くなります。問題文をじっくり読んでいると時間切れになってしまう可能性があるため、必要な情報を素早く選ぶことなどを意識した演習を積みましょう。

●分量が多いので、最初は70分以上かけてもよいので、自力で解ききれるように過去の共通テストの解き直しをしましょう。その後、少しずつ時間内に終われるよう、時間配分や効率的な計算を意識した演習を積みましょう。



●教科書レベルの基本問題の演習はこれまでと変わらず必須です。新しい形式に慣れることも重要ですが、教科書の定理・公式の確認など、基本をおろそかにしないようにしましょう。

【数学II B】

●現実の出来事をテーマとした第2問や第4問のように、今後も文章量が多い問題が出題される可能性があります。対話文をヒントにしたり、「～より」「～に注意する」などの語句にも着目し、誘導に従いながら解き進めましょう。

●共通テストも、基本的な問題も出題されています。教科書に載っている公式や定理を、成り立ちなども含め理解していきましょう。その基礎が学校の授業なので、日頃の授業が大事です。

●見慣れない問題を解く際は、値を代入した結果の推測や条件の読み替えなど、自分の知っている知識との結びつけが重要。あせらず、どの知識を用いればいいか、どこに着目すれば選択肢を消去できるかなどを考え、見通しを立てて解き進めるようにしましょう。

【英語(リーディング)】

●内容や場面が工夫された文章が出題され、多面的なリーディング能力が問われています。「複数の情報を処理する力」や「文章の論理的展開を把握する力」を意識して伸ばしていきましょう。

●英文の量が多いので、日頃から様々な種類の英文を短時間で読解する練習をしましょう。さらに複数の英文と図表の内容を組み合わせるような情報処理する能力を養う学習をしていきましょう。

【英語(リスニング)】

●音声で聴いて、表面だけでなく、具体的な状況やイメージを頭の中で思い浮かべられるかがポイントです。話し手の意図や場面を意識しながら、音声を聞く練習を積もう。

●今後も、音声情報と図表などの視覚情報をもとに解答したり、複数の情報を整理・判断したりするなど多面的に情報を処理することが求められるでしょう。重要な情報を逃さずに聴き取ることが出来るようにメモを活用して短時間で情報を整理する練習を積むとよいです。

●日常の会話から社会的なテーマのメッセージまで、出題される素材のテーマ・形式は幅広く、またイギリス人や日本人を想定したと思われる話者を含む出題もあります。日頃から様々な音声や問題形式に触れる機会を増やしておきましょう。



英検などの英語資格は、とっておきたい大学受験に有利な資格です！

①得点換算される

私大の一般入試では、大学独自の英語の試験が行われますが、得点換算される制度を利用すると英語の試験を受ける必要がなくなり、例えばA大学は英検2級2,150点以上は80点、準1級というように、100点など英語試験の点数として扱ってくれます。

②加点される

外部検定の資格によって、入試の総合点に加点される大学もあります。

③出願資格を得る

大学によっては、外部検定の試験結果がないと出願できないことがあります。主に推薦入試の出願条件になっていますが、東京海洋大などの一般入試でも条件に入っている場合があります。早めに志望大学の入試要項を確認し、資格取得を目指しましょう。

